

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
1	第2233号	肺癌症例のデータベース構築による臨床・病理学的因子のレトロスペクティブ解析	肺癌外科治療の術式、合併症、予後を把握し治療手技の評価等を行うためにデータを集積して、データベース化を行い今後の治療に活用する。	肺癌 昭和49年1月1日～平成24年10月25日	1,400例	平成24年11月6日	平成30年3月31日	外科学 (呼吸器外科) 中村 治彦
2	第2304号	関節リウマチ(RA)における感染症のリスク因子についての検討	MTXを第一選択薬とし、生物学的製剤を早期に導入することにより、感染症のリスクが増加している。感染率の高さにはRA自体の病態、疾患活動性、治療が関係しているとの報告もある。入院を必要とするRA患者における重度感染症のリスク因子を研究し、重度感染症の減少につなげる。	関節リウマチ 平成19年4月1日～平成24年3月31日	500例	平成24年12月22日	平成29年3月31日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 永瀬 裕子
3	第2390号	頸動脈エコーを用いた早発閉経及び更年期女性に対するホルモン補充療法の動脈硬化予防効果の検討	女性ホルモンが減衰する更年期以降は冠動脈疾患の最大のリスクファクターである。LDL-コレステロールは急速に増加し、それが冠動脈疾患の相対危険度を上昇させる。一方、ホルモン補充療法はLDL-Cを著明に低下させるとされている。早発閉経・脂質代謝異常の患者や更年期障害のためにHRTを施行している患者、更年期障害がありながらも、乳がんの既往などによりHRTではなく漢方薬などで治療を行っている同世代の患者に対して、冠動脈を含む全身の動脈硬化のマーカーとされる頸動脈病変の有無と、脂質代謝異常について検討する。	早発閉経、更年期障害、脂質代謝異常 平成22年1月1日～平成25年3月15日	200例	平成25年04月03日	平成29年03月31日	産婦人科学 五十嵐 豪
4	第2438号	「頭蓋内主幹動脈狭窄性病変の進行予測と頸動脈硬化」に関する研究	年齢、性別、高血圧症、糖尿病、高脂血症、慢性腎不全といったrisk要因が、頸動脈狭窄進行と頭蓋内主幹動脈狭窄それぞれにどのように影響するか、両者の進行の観点で説明したものはこれまで報告されていない。頭蓋内主幹動脈狭窄進行および頸動脈狭窄進行に寄与するrisk要因を明らかにする。	頭部MRI、頸動脈USを同時期に施行 平成12年1月1日～平成25年5月30日	120例	平成25年6月4日	平成30年3月31日	内科学 (神経内科) 清水 高弘
5	第2495号	心臓3DマッピングシステムのCTとの融合に与える影響因子の検討	不整脈領域のカテーテルアブレーションの治療において、心腔内心筋性状に関する情報が重要となっている。心臓3Dマッピングシステムは、心腔内超音波画像をCTやMRIと融合を行うなど、安全に詳細な解剖学的位置情報の取得が可能となっている。この解剖学的位置情報取得時における影響因子等を検討する。	心房細動 平成22年4月1日～平成25年7月31日	300例	平成25年8月10日	平成30年3月31日	クリニカルエンジニア部 佐藤 尚
6	第2496号	僧帽弁複合体と大動脈弁複合体の解剖学的関係性が心機能に及ぼす影響についての後ろ向き研究	近年、高齢化に伴い大動脈弁狭窄症患者数と心血管系の有害事象(突然死など)発生頻度が増加傾向にあり、発症後、放置すると致命的となる場合がある。大動脈弁狭窄症では大動脈弁置換術が推奨されているが、近年では僧帽弁と大動脈弁が解剖学的・形態的に影響し合っていると報告されている。僧帽弁と大動脈弁・線維性組織を併せてMitral-Aortic valvular coupling (MAC)と呼ぶ。大動脈弁狭窄症では僧帽弁逆流が多く存在するが、僧帽弁形成術・置換術の追加判断はしばしば困難であり、エビデンスも少ない。また近年はカテーテル治療も本邦に導入予定であり、これら評価法の確立は大変重要な課題と考える。本研究は、3次元心エコー検査を用いて正常者及び大動脈弁狭窄患者のMACの評価を目的とする。	大動脈弁狭窄症患者 比較対象者:正常者 平成21年4月1日～平成25年8月6日	110例	平成25年8月19日	平成29年12月31日	内科学 (循環器内科) 出雲 昌樹

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
7	第2528号	胃切除術患者の術式による栄養評価について	胃切除術患者は手術により大きな侵襲を受け、絶食期間を経た後に徐々に食事を開始するが、食事摂取状況は個人により差がある。今回、胃切除術患者の術後期間内の食事摂取量を調査し、必要栄養量に対する充足率を求め、術式による栄養摂取充足率および体重変化率等や栄養状態のちがいにについて調査したいと考えた。	胃癌のため胃の手術を行った患者 平成22年4月1日～平成25年8月31日	50例	平成25年9月11日	平成28年8月31日	栄養部 【西部病院】 柴田 みち
8	第2571号	人間ドックにおけるホルター心電図による心室遅延電位測定の意義	重症不整脈の予知に関する心室遅延電位測定は保険適応となり、ますます臨床での評価が高まっている。健診センターでは心室遅延電位測定可能なホルター心電図を使用しており、通常のホルター心電図結果に加え1日を通した心室遅延電位測定が可能である。通常のホルター心電図ではわからない不整脈の予知が期待できる。そこで今回、H24年に当院人間ドックのオプション検査であるホルター心電図を施行した結果をコンピューター解析する。心室遅延電位の有無を確認し、今後人間ドックでの検査項目としての有用性を検討する。	H24年にホルター心電図を施行した人間ドック受診者 平成24年1月4日～平成24年12月28日	69例	平成25年11月14日	平成28年9月30日	内科学 (循環器内科) 原 正壽
9	第2583号	鉄キレート薬Deferasiroxによる腎機能障害・尿異常の縦断的調査	Deferasirox懸濁用錠(エクジェイドR)は頻回の赤血球輸血による慢性鉄過剰症に対して投与される鉄キレート剤である。我々は本剤の内服開始後に腎機能悪化を認め、Fanconi症候群と診断し得た症例を経験したが、文献的にもそのような腎機能に与える影響を示唆する報告が相次いでいる。しかし、本邦における報告はほとんどないため、当院でのDeferasirox使用患者における腎障害の状況を把握する。	骨髄異形形成症候群、再生不良性貧血、骨髄線維症 平成22年1月1日～平成25年11月30日	20例	平成25年12月9日	平成30年3月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 柴垣 有吾
10	第2603号	国際胆道炎特別研究プロジェクト	過去2年間に治療がなされた急性胆道炎のドレナージおよび手術の前後に使用された抗菌薬および胆汁・血液からの検出菌を解析し、アウトカムとの関連性を明らかにする。日本肝胆膵外科学会の認定する高度技能修練施設で共同研究を行う。さらに台湾の消化器外科医、消化器内科医、感染症科医の研究協力者を募って研究を行う。集積されたデータを解析し、国際胆道感染診療ガイドラインTokyo Guidelines 2013(TG 13)の推奨事項について、これまでに明らかにされていない胆道感染症の最適治療法(ベストプラクティス)を今回のアウトカム指標によって検証する。	急性胆道炎および急性胆管炎 平成23年1月1日～平成24年12月31日	400例 (胆嚢炎200例、胆管炎200例) 全体: 胆嚢炎3,000例、胆管炎1,000～2,000例	平成25年12月24日	平成28年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
11	第2718号	特定健診からみた高齢者における動脈硬化性疾患の病状推移	特定健康診査(以下、特定健診)の65歳以上の受診者を対象者とし、高齢者に対する健康診断の効率性に関して検討することを目的とする。本研究を行なうことにより、高齢者に対する健診について新しい施行方法の検索や、高齢者における動脈硬化性疾患治療への基盤となる可能性がある。	期間内の特定健診の65歳以上の受診者 平成23年4月1日～平成26年3月31日	2,000例	平成26年4月28日	平成30年3月31日	内科学 (総合診療内科) 鳥飼 圭人

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
12	第2808号	乳腺密度3次元自動評価ソフトウェア(Volpara)を用いた背景乳腺の検討	乳癌検診および乳癌の診断においてマンモグラフィは広く使用されているが、背景乳腺の濃度により乳癌の検出能が変化すると報告もあり、視覚的評価では客観性に乏しいことが指摘されている。欧米では3次元自動評価ソフトウェア(Volpara)を用いた背景乳腺の濃度評価の報告があるが、本邦ではわずかである。本研究は日本人の乳房における3次元自動評価ソフトウェアの有用性について、検討を行なう。	マンモグラフィ 平成24年1月1日～平成26年7月31日	約2,000例 ブレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック 約1,000例	平成26年9月9日	平成29年3月31日	放射線医学 奥田 逸子
13	第2809号	ANCA関連血管炎の臨床像と長期予後の解析	血管炎とは血管壁に炎症をきたす病変であり、多彩な臨床症状・疾患群を血管炎症候群と呼ぶ。血管炎はサイズにより大・中・小型等に分類され、免疫複合体性の血管炎のほか、病変部位に免疫複合体が検出できないPauci-immune型の血管炎があり、顕微鏡的多発血管炎(MPA)、多発血管炎性肉芽腫症(GPA)、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の3疾患がある。この3疾患はともに肺・腎の小型血管を好んで侵し、障害組織への免疫複合体沈着に乏しく、抗抗中球細胞質抗体(ANCA)がしばしば検出されるなどの共通点が多くみられることから、総じてANCA関連血管炎と呼ばれる。 欧米と比較して、我が国では前述のMPAが比較的高頻度に見られ、また高率に間質性肺炎をはじめとする様々な肺病変を合併することが知られている。しかし、欧米諸国では肺病変の合併は稀であるため、MPAの肺病変に関する報告は少ない。 本研究はMPAを中心とした肺病変に注目し、その他の臓器病変と共にその特徴・治療反応性・予後などを明らかにする。	ANCA関連血管炎 平成21年4月1日～平成26年6月30日	150例	平成26年9月9日	平成30年3月31日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 松下 広美
14	第2811号	入院患者を対象とした起居移乗動作能力と身体機能の関連に関する後ろ向き調査	寝返り、起き上がり、移動等の起居移乗動作が自立して行なえるか否かはQOLに影響をきたす。また、これらの動作は人的な介助の必要性を左右するため、本人・介助者の介護負担にも関わる重要な動作である。医学的リハビリテーションにおいては起居移乗動作の獲得を目標に介入を行なうことが少なくない。しかし、起居移乗動作を独力で行なえる水準について検討した報告は少なく、自立に必要な身体機能は明らかでない。 したがって、起居移乗動作の獲得に必要な身体機能の水準が明らかになれば、介入を行なう際の目標がより具体的に提示できるほか、起居移乗動作に障害がある場合、原因が身体機能にあるか、あるいは技術や学習過程にあるのか明らかになれば、より効果的な介入を行なう上で有用である。また、起居移乗動作の獲得に順序性や練習時間との関連があれば、予後の予測も可能になると考えられる。 本研究は、(1)起居移乗動作の獲得に必要な身体機能の因子およびその水準を明らかにし、(2)起居移乗動作の順序性と時間的関連を明らかにする。	脳卒中および虚弱者高齢者 平成24年4月1日～平成26年3月31日	20例	平成26年9月22日	平成29年3月31日	リハビリテーション部 最上谷 拓磨

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
15	第2816号	脊髄小脳変性症の小脳堆積の経時的変化と臨床症候との対比に関する研究	<p>脊髄小脳変性症は小脳と脊髄を中心とした神経変性疾患の総称である。近年、遺伝子診断により様々な型に分けることが可能となってきたが、進行を抑制する治療法は未だ確立されていない。MRIなどの画像診断が進歩した今日、脊髄・小脳の経年的萎縮を観察することは可能であるが、萎縮の進行と臨床症候、病型との対比に関する研究はほとんどない。MRIの経時的観察による萎縮のスピードや萎縮部位から日常動作の低下、寝たきりとなる時期、経管栄養を要する嚥下障害の出現時期等、早期に予測できれば、治療介入が容易となり、本疾患の治療法の向上に寄与すると考えられる。</p> <p>以上よりこれまで我々が入院あるいは外来で治療を行ってきた脊髄小脳変性症患者の臨床データを後方視的に調査し、施行されたMRIの小脳体積を計測して、臨床症候の経時的変化との対比を行なうこととした。</p> <p>本研究は小脳および大脳の脳萎縮の速度と臨床症状との相関を明らかにし、脊髄小脳変性症の病型別脳萎縮の年間萎縮率を計測し、年間萎縮率や小脳の実体積から日常生活動作低下の予測、寝たきりとなる時期、経管栄養を要する嚥下障害の出現時期、気管切開を要する時期などの主要な転帰を予測できるか、その可否について明らかにする。</p>	脊髄小脳変性症 平成16年1月1日～平成26年8月24日	180例	平成26年9月9日	平成29年3月31日	内科学(神経内科) 長谷川 泰弘
16	第2844号	前庭神経炎と両側前庭機能障害に関する疫学研究	<p>前庭神経炎は、強い回転性めまい発作で発症し、一側の前庭機能が障害されるために体動時あるいは歩行時のフラツキ感が長期に残存する原因不明の難治性前庭機能障害疾患である。また、両側前庭機能障害も、両側の前庭機能が障害されるために体動時あるいは歩行時のフラツキ感が長期に残存する原因不明の難治性前庭機能障害疾患である。本研究では、当院の耳鼻咽喉科を受診した前庭神経炎および両側前庭機能障害患者の臨床症状、検査所見、予後などについて、後ろ向きに疫学調査を行う。</p>	前庭神経炎 平成21年4月1日～平成26年9月16日	50例 (全体800例)	平成26年10月21日	平成29年3月31日	耳鼻咽喉科学 肥塚 泉
17	第2845号	メニエール病および遅発性内リンパ水腫に関する疫学研究	<p>メニエール病は、耳鳴、難聴を伴う回転性めまい発作を反復する原因不明の難治性前庭機能障害疾患で、病態は内リンパ水腫である。遅発性内リンパ水腫は、先行する高度感音難聴の後、遅発性持続性に内リンパ水腫が生じ、回転性めまいを繰り返す難治性前庭機能障害疾患である。本研究では、当院の耳鼻咽喉科を受診したメニエール病および遅発性内リンパ水腫患者の臨床症状、検査所見、予後などについて、後ろ向きに疫学調査を行う。</p>	メニエール病および遅発性内リンパ水腫 平成21年4月1日～平成26年9月16日	100例 (全体16,000例)	平成26年10月21日	平成29年3月31日	耳鼻咽喉科学 肥塚 泉

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
18	第2861号	子宮頸癌傍大動脈転移症例に対する放射線治療成績の検討	子宮頸癌傍大動脈転移は遠隔転移であり予後不良とされるが、近年骨盤領域に加え傍大動脈領域を含む拡大した照射域への放射線治療により、長期生存例が報告されるようになった。今回、この拡大照射野への放射線治療の効果と安全性の検討を目的として、当院における治療成績を遡及的に調査する。	根治目的で放射線治療を行った傍大動脈リンパ節転移をもつ子宮頸癌症例 平成19年1月1日～平成25年12月31日	20例	平成26年10月27日	平成30年12月31日	放射線医学 五味 弘道
19	第2862号	循環器疾患患者における入院期および回復期以降の心臓リハビリテーション進行に関わる要因に関する研究～合併症をはじめとする臨床背景因子の影響を考慮して～	本邦では、心臓リハビリテーション(以下心リハ)の進行にあたり、「心大血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン2012」が制定されているが、その基となる研究報告の多くは、安定期にある循環器疾患患者を対象とした検討であり、急性期の心リハ進行に関わる明確なプログラムは確立されていない。また、回復期以降の心リハにおいても、有効な効果指標や、継続率を向上させるような介入手段については、未だ不明な点も多い。さらに、超高齢化が進行している本邦では、合併症罹患により重複障害を呈する心リハ患者の割合が増加しているため、合併症に伴うリスクや特異性に対応した心リハプログラムの確立が必須である。本研究の目的は、(1)循環器疾患患者における入院期および回復期以降の心リハ進行に関わる要因について、(2)年齢や重複障害をはじめとする臨床背景因子の影響について明らかにすることである。本研究成果により、従来の集団的心リハプログラムに加えて、テーラーメイド型の介入を視野に入れた、より効果的な指導方策を導き出せる可能性がある。	当院救命病棟およびハートセンターに入院し、リハビリテーション依頼があった循環器疾患患者(急性心筋梗塞、狭心症、心不全、大血管疾患、開心術後)のうち、各評価項目が測定できた連続症例 平成20年1月1日～平成26年9月29日	200例	平成26年11月5日	平成29年9月29日	リハビリテーション部 木田 圭亮
20	第2863号	ネフローゼ症候群を伴うIgA腎症の長期予後について	IgA腎症は、主に免疫グロブリンの一種であるIgAが免疫複合体を形成し、腎糸球体メサンギウム領域に沈着することを特徴とする疾患である。世界で最も頻度の高い原発性糸球体腎炎であり、特に日本をはじめとするアジア諸国に多く発症する。IgA腎症は通常軽度から中等度の蛋白尿を伴う場合が多く、ネフローゼ症候群を呈することは少ない。そのためネフローゼ症候群を呈するIgA腎症の長期予後は不明であり、その長期予後を明らかにすることが重要である。	ネフローゼ症候群を呈するIgA腎症 平成元年1月1日～平成26年3月31日	100例	平成26年10月27日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 今井 直彦
21	第2877号	Non-vitamin K antagonist oral anticoagulants (NOACs)内服中に発症した症候性頭蓋内出血例の臨床的検討	本邦では2011年3月にNOACsであるダビガトランが、非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制を適応とし発売されて以来、順次、リバーロキサバン、アピキサバン、エドキサバンが使用可能となった。これらは出血合併症が稀少とされるも使用頻度増加と共に頭蓋内出血例が散見されるようになってきたが、その臨床的特徴の報告は少ない。本研究ではNOACs内服中に発症した症候性頭蓋内出血例の臨床的特徴をワーファリンと比較し明確化することを目的とする。	NOACsまたはワーファリン内服中に発症した症候性頭蓋内出血 平成23年3月1日～平成26年9月30日	6例(NOACs) +32例(ワーファリン) 計38例	平成26年11月25日	平成29年3月31日	内科学 (神経内科) 秋山 久尚

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
22	第2879号	多発性硬化症に対するフィンゴリモド導入例における有効性と安全性の長期的評価	世界で2010年、本邦でも2011年11月に認可された多発性硬化症治療剤であるフィンゴリモド(ジレニアノイムセラカプセル)の使用頻度が、この3年間に徐々に増加し、フィンゴリモド導入例における長期的有効性と安全性の再評価が必要な時期となってきた。しかし、適応疾患が多発性硬化症のみと限定的であり、臨床的効果や副作用の蓄積も十分でないのが現状である。これに鑑み、当院でフィンゴリモドを導入した12症例を対象に有効性と安全性の長期的評価を調査し、今後の同薬使用の注意点探索・評価を目的とする。	フィンゴリモドを導入した多発性硬化症 平成23年11月1日～平成26年9月30日	12例	平成26年11月25日	平成29年3月31日	内科学 (神経内科) 秋山 久尚
23	第2881号	腎移植ドナーのフォローの現状について	腎移植は腎代替療法のオプションの一つであり、生体腎移植と献腎移植に分けられる。本邦の腎移植はそのほとんどが生体腎移植でありドナーが重要な役割を果たす。ドナーの長期予後は良好と言われているが、中には末期腎不全にいたるものもある。このため腎移植後も定期的なフォローが重要であり、当院におけるドナーフォローの現況を調査する。	生体腎移植ドナー 平成10年1月1日～平成25年12月31日	130例	平成26年11月25日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 今井 直彦
24	第2896号	脳卒中症例の屋内歩行自立に関連する因子の検討 -急性期病院退院時評価による検討-	脳卒中発症後の回復期リハビリテーション終了時の屋内歩行自立の可否は、在宅復帰を考える際の重要な因子である。脳梗塞後の歩行自立度には機能障害、能力障害、高次脳機能障害などの多くの因子が関連しているが、発症後早期よりその可否に関連する因子を明らかにできれば、急性期リハビリテーションにおける重点目標も立案しやすい。しかし、この因子についての報告は少ない。本研究は、急性期リハビリテーション退院時評価から、回復期リハビリテーション終了時の屋内歩行自立の可否に関連する因子を明らかにすることを目的とする。	急性期脳血管障害 平成21年4月1日～平成26年9月30日	1,200例	平成27年1月13日	平成29年3月31日	リハビリテーション室 【東横病院】 八木 麻衣子
25	第2898号	関節リウマチ患者におけるMTX関連リンパ腫の解析	関節リウマチを発症した患者は初回治療として7-8割がMTXの投与を受けているが、MTX投与症例の中には悪性リンパ腫を発生することが知られている。MTX関連リンパ腫は通常の悪性リンパ腫とは異なり、MTX中止により軽快することがある。本研究では、当科における関節リウマチ患者におけるMTX関連リンパ腫症例についてその臨床的特徴を明らかにするために、解析を行う。	MTX関連リンパ腫、 対照群として関節リウマチ 平成16年4月1日～平成26年11月30日	MTX関連リンパ腫50例、 関節リウマチ50例	平成27年1月6日	平成29年11月30日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 永淵 裕子
26	第2899号	乾癬性関節炎の臨床的特徴の解析	乾癬性関節炎は乾癬にリウマチ反応陰性の関節炎が伴う疾患で、皮膚症状が先行しない症例があり、関節リウマチとの鑑別が重要な疾患である。当科の乾癬性関節炎の臨床的特徴を解析し明らかにする。	乾癬性関節炎、 関節リウマチ 平成16年4月1日～平成26年11月30日	乾癬性関節炎50例、 関節リウマチ50例	平成27年1月6日	平成29年11月30日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 永淵 裕子

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
27	第2900号	単関節炎の関節リウマチの臨床的特徴の解析	関節リウマチは対称性多関節炎を特徴とするが、単関節炎の関節リウマチの存在も報告されている。関節リウマチのACRの分類基準が改訂され、早期関節リウマチの早期診断、早期治療介入のため、単関節炎でも関節リウマチと診断できる症例が増えている。本研究は、単関節炎の関節リウマチの臨床的特徴を解析する。	関節リウマチ 平成16年4月1日～平成26年11月30日	単関節炎50例、 多関節リウマチ50例	平成27年1月6日	平成29年11月30日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 永淵 裕子
28	第2924号	てんかん性脳症の神経学的予後に関する研究:治療介入による差異について	小児期に発症するてんかんは予後良好なものが多いが、一部の患者においては治療に抵抗し、発作が持続かつ遷延し知的障害や各種神経障害を合併する。このような症例はてんかん性脳症と呼ばれ小児科領域で大きな問題となっている。今回、てんかん性脳症の予後を調査し各種治療介入の正当性について評価する。適切な抗てんかん薬の組み合わせ、早期のてんかん外科治療の有効性を検証し、今後の治療に反映させる。	てんかん性脳症: てんかん発作が持続かつ遷延し知的障害や各種神経障害を合併している症例 平成17年1月1日～平成26年12月31日	15例	平成27年2月6日	平成28年12月31日	小児科学 山本 仁
29	第2931号	癒着胎盤に対し保存的治療を行った場合の胎盤血流の推移とその評価法の検討	近年、癒着胎盤に対し胎盤を子宮内に残し消失を待つ保存的治療が注目されている。保存的治療は術中出血量の軽減や妊孕性温存などの利点がある一方、術後出血、感染などの合併症を引き起こす可能性があり、その管理法は未だ確立していない。帝王切開後に動脈塞栓術を行ない、残置した胎盤の血流と画像上の変化の推移を評価し、保存的治療における塞栓術の有用性と安全性を検証する。	帝王切開施行時に癒着胎盤と診断し、胎盤の一部または全部を子宮内に残置した症例 平成26年1月1日～平成26年12月31日	6例	平成27年2月17日	平成29年12月31日	産婦人科学 五十嵐 豪
30	第2942号	パーキンソン病における低血糖	パーキンソン病と耐糖能低下についての報告は多いが、低血糖との関連を報告した研究は少ない。罹患年数が長期になると低血糖発作を生じ入院となるパーキンソン病患者を数例経験したため、パーキンソン病の血糖が低下傾向にあるのか明らかにする。	パーキンソン病 平成25年7月1日～平成26年8月31日	30例	平成27年2月26日	平成28年12月31日	内科学 (神経内科) 眞木 二葉
31	第2944号	自己免疫疾患(ベーチェット病、強直性脊椎炎等)における観察研究	自己免疫疾患については罹患率が稀であることから、大規模な観察研究が難しい。本学は自己免疫疾患患者が多く、大規模・長期にわたる診療が行われていることから、予後・治療経過について疫学調査を行う。	自己免疫疾患(ベーチェット病、強直性脊椎炎など)とその対象疾患 平成16年4月1日～平成26年2月1日	300例	平成27年3月5日	平成31年3月31日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 大岡 正道
32	第2953号	BPPV病型におけるROM療法の効果の差異について	良性発作性頭位めまい症(BPPV)患者に対しては、運動療法が施行されることが多い。Rolling-over maneuver(ROM)は非特異的運動療法としてBPPVの病型にかかわらず有効であるといわれているが、それを評価した研究は少ない。今回、BPPVの病型によってROMの効果に差異があるかどうか評価する。	良性発作性頭位めまい症 平成26年1月1日～平成26年12月31日	200例	平成27年3月18日	平成30年3月31日	耳鼻咽喉科学 肥塚 泉

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
33	第2964号	リウマチ性疾患におけるB型肝炎の調査	自己免疫疾患の治療には、免疫抑制療法(副腎皮質ステロイドを含む)が頻りに用いられているが、近年は免疫抑制療法により、B型肝炎既感染例の肝炎再燃例(de novo 肝炎)が報告されている。本研究では診療記録を用いて関節リウマチを中心とした自己免疫疾患のB型肝炎感染歴と免疫抑制療法に伴うB型肝炎の再活性化、およびde novo 肝炎発症の有無を調査する。	関節リウマチ、膠原病(全身性エリテマトーデス、血管炎症候群など) 平成24年1月1日～平成26年4月30日	400例	平成27年4月9日	平成29年3月31日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 【西部病院】 柴田 朋彦
34	第2965号	当科における急性虫垂炎の検討	小児の急性虫垂炎は成人に比べ重篤化することが多い。しかし、患者は自分の症状などを訴えることが困難で、身体診察なども制限される。今回、小児の急性虫垂炎症例において術前検査で術後合併症を予測できる因子が挙げられないか検討を行い、今後の周術期管理の指針とする。	急性虫垂炎 平成18年1月1日～平成27年3月31日	668例	平成27年4月9日	平成30年3月31日	外科学 (小児外科) 脇坂 宗親
35	第2967号	保存的療法を施行した前置癒着胎盤5症例に関する検討	前置癒着胎盤における管理法の一つとしてcesarean hysterectomy(CH)があるが、出血量の増加や膀胱損傷等の問題点が挙げられ、近年では子宮温存を図る保存的療法に関する報告も散見される。当院の前置癒着胎盤症例における保存的療法の適応は、今後の挙児希望のある症例やCHIに伴う膀胱合併症が予想される症例のうちインフォームドコンセントが得られた症例としている。今回、保存的療法を施行した前置癒着胎盤症例の臨床経過を明確にすることを目的として検討を行う。	前置癒着胎盤 平成26年1月1日～平成26年12月31日	5例	平成27年4月9日	平成28年12月31日	産婦人科学 名古 崇史
36	第2975号	膵頭部領域におけるNBCA-lipiodolを用いた塞栓術の安全性に関する後ろ視的検討	当院放射線科ではNBCA-lipiodolを用いた塞栓術を積極的に実施してきた。膵頭部領域の塞栓術は術後の致死的な出血性合併症への対処法として重要な役割を果たすが、消化管穿孔や急性膵炎などの重篤な副作用も生じることがあり、膵頭部領域にNBCA-lipiodolを用いて塞栓術を実施した場合の合併症頻度と重症度の詳細はよく知られていない。本研究では当院における成績を評価し、合併症頻度と重症度についての実態を明らかにする。	肝胆膵術後出血、十二指腸潰瘍、肝細胞癌など膵頭部領域でNBCA-lipiodolを用いた塞栓術を行った症例 平成17年4月1日～平成27年3月31日	20例	平成27年4月20日	平成29年3月31日	放射線医学 橋本 一樹
37	第2983号	Low grade DCISに対する術後放射線照射の有効性に関する後ろ向き検討	日常の臨床では、DCIS症例に対して乳房部分切除後には通常、残存乳房への放射線照射を行っているが、組織型・年齢・病変の広がり・範囲・異型度・切除断端からの距離などを参考に、照射を省略することがある。本研究では、当科でのDCIS症例に対する術式や照射の有無とその予後に関する後ろ向き検討を行う。	非浸潤性乳管癌(DCIS)と診断され、手術が施行された症例 平成16年1月1日～平成24年12月31日	550例	平成27年4月23日	平成28年12月31日	外科学 (乳腺・内分泌外科) 小島 康幸

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
38	第2984号	進行・再発乳癌に対するEribulinの使用状況についての後ろ向き検討	Eribulinは乳癌治療において、アンストラサイクリン、タキサン系の薬剤を既使用の症例で、再発した際に有効性が期待される薬剤である。本邦では再発1stから使用が認可されているが、欧州ではEMAが301,303試験の検討結果を統合解析したevidenceに基づき、Eribulinの2nd lineからの使用を認めるなど、使用状況には地域差が生じている。Eribulinの承認後より、当院ではEribulinを用いた治療実績を重ねてきたが今後、前向き試験実施を検討している。その際の参考とするため、本研究では現在までに得られた診療情報から使用状況と有効性について後ろ向きに検討を行う。	進行・再発乳癌と診断され、Eribulinが投与された症例 平成22年4月1日～平成27年3月30日	90例	平成27年4月23日	平成28年12月31日	外科学 (乳腺・内分泌外科) 小島 康幸
39	第2993号	大腸鋸歯状病変に対する拡大内視鏡診断の有用性についての検討	近年、大腸鋸歯状病変、特にSSA/PIは、散発性大腸癌の約15%を占めるMSI陽性癌の前駆病変として注目されているが、比較的新しい疾患概念であり、その内視鏡診断や臨床的取扱いに関しては一定のコンセンサスが得られていないため、大腸癌のサーベイランスを行う上で今後、鋸歯状病変に対する内視鏡診断を確立することは重要課題である。本研究では、当院にて切除された大腸鋸歯状病変の内視鏡所見と病理診断を対比し、特徴的な所見を明らかにする。	内視鏡、もしくは外科的に切除された大腸鋸歯状病変群 平成20年1月1日～平成23年9月30日	118例	平成27年5月13日	平成30年3月31日	内科学 (消化器・肝臓内科) 【多摩病院】 石郷岡 晋也
40	第3017号	早発卵巣不全に対する不妊治療の臨床成績	早発卵巣不全は、若年で卵巣機能が低下し、重度の不妊症を呈する疾患である。不妊治療は難渋するものの、妊娠に至った報告が散見されるが、大規模な報告事例は未だなされていない。当院では早発卵巣不全の不妊治療を積極的に施行していることから、当院における早発卵巣不全患者の採卵率、胚移植成功率について後方視的に検討する。	早発卵巣不全 平成19年1月1日～平成27年5月8日	700例	平成27年6月17日	平成28年12月31日	産婦人科学 吉岡 伸人
41	第3021号	再発性多発軟骨炎患者におけるCTと呼吸機能検査による気管狭窄の評価	再発性多発軟骨炎(RP)は、全身の軟骨およびムコ多糖類を多く含む組織を侵す原因不明の稀な難治性疾患であり、中でも気道病変は気管軟骨の炎症と脆弱化によって気管支軟化症を発症し、気管閉塞・虚脱、窒息による突然死リスクの予後予測因子の一つとされている。現在呼吸器内科では気道病変の診断と治療、管理を主に行なっており、RPは被曝のリスクがあるものの、病状評価に欠かすことができない。一方、重度の気管支軟化症を発症し切開を受けた患者では機能的な評価は難しい。そのため今回、呼吸機能検査とCT画像解析の相関の検討を行い、気管切開を施行した患者の呼吸機能的フォローアップ手段にCT解析が応用できるのではないかと考えた。CTを用いてRPにおける気道断面積の解析を行い、RPにおける中枢気道病変がCTと呼吸機能検査の間に相関があるかを検討する。	再発性多発軟骨炎と診断され、当院呼吸器内科を受診し、CTと呼吸機能検査を施行された患者 平成20年4月1日～平成26年3月31日	26例	平成27年7月6日	平成28年7月5日	内科学 (呼吸器内科) 半田 寛

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
42	第3024号	高安動脈炎と巨細胞性動脈炎の治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究	本研究は厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎の大型血管炎の研究班の中で行う臨床研究である。平成19年4月1日から平成26年3月31日の間に高安動脈炎あるいは巨細胞性動脈炎と診断された患者で、新たにステロイド療法が開始された症例あるいは再発例に対してプレドニン(PSL)0.5mg/kg以上を開始した患者あるいは生物学的製剤の投与が新たに開始された患者を対象とする。登録された患者に関して(1)これらの疾患の人口統計学的特徴と疾患特性、(2)実施されたステロイド療法、免疫抑制剤の内容と寛解導入率、再発率、予後、(3)ステロイド治療の安全性、有害事象の発現状況を後方視的に検討する。	高安動脈炎、巨細胞性動脈炎 平成19年4月1日～平成26年3月31日	10例	平成27年6月23日	平成29年3月31日	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科) 山田 秀裕
43	第3033号	頸部膿瘍手術における麻酔導入方法、抜管基準の検討	頸部膿瘍は換気困難、挿管困難、嚥下障害を来す疾患であり、全身麻酔導入においては自発呼吸の温存と気管挿管、もしくは気管切開を行うかの明確な判断基準がない。今回、過去10年間の頸部膿瘍症例における麻酔導入方法を後ろ向きに検討し、症例ごとの適切な麻酔導入方法と抜管の基準について検討を行う。	頸部膿瘍 平成17年1月1日～平成27年5月31日	50例	平成27年7月22日	平成28年8月31日	麻酔学 小幡 由美
44	第3035号	末期腎不全患者に対する動脈表在化手術の有効性に関する研究	血液透析にはバスキュラーアクセス(血液を体内から取り出し、返血する経路)が必要である。本邦では以前からシャント作成が困難な症例に上腕動脈表在化という手術が施行されてきたが、海外での報告は少ない。本研究では、国内において多施設の調査を行い、動脈表在化の効果や開存期間、合併症を調査する。	末期腎不全で血液透析を施行中もしくは施行予定で動脈表在化手術を行った患者 平成24年1月1日～平成25年12月31日	20例 (全体200～300例)	平成27年7月15日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 末木 志奈
45	第3043号	センチネルリンパ節転移陽性・非郭清乳癌の予後に関する後ろ向き研究	乳癌におけるセンチネルリンパ節生検(sentinel node biopsy、SNB)はアイントープ法から始まり、20年が経過した。SNBは臨床的リンパ節転移陰性(NO)乳癌において腋窩リンパ節転移を正確に診断できる生検法であることが検証され、転移陰性であれば非郭清でも予後が変わらないことが証明されている。さらに近年、微小転移や少数のリンパ節転移例に対しても非郭清の適応が拡大しつつある。今回、術中迅速病理検査で偽陰性となり、結果的に非郭清となったpN1mi(sn)乳癌またはpN1(sn)乳癌を対象に、集学的乳癌治療における非郭清の妥当性を検討するため、SNB後の非郭清症例を後ろ向きに集積し、その予後を解析する。	原発性乳癌 平成20年1月1日～平成23年12月31日	20例 (全体200例)	平成27年7月27日	平成31年3月31日	外科学 (乳腺・内分泌外科) 津川 浩一郎

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
46	第3059号	COPDにおける気管支拡張薬が肺血管体積に与える効果の検討	COPDは閉塞性換気障害を来す疾患であり、治療には抗コリン薬や長時間作用型β2刺激薬の吸入を行う方法がとられているが、呼吸機能や画像所見における改善効果は乏しい。血管体積と換気障害との相関を示す報告はあるが、本研究ではCOPDに対し、薬物治療による自覚症状の改善と呼吸機能及び肺血管体積の関係についての評価を行う。	20歳以上の未治療のCOPD患者において、薬物治療開始前と開始後半年以内にCTを施行したもの 平成25年7月1日～平成27年6月30日	20例	平成27年8月6日	平成29年6月30日	内科学 (呼吸器内科) 竹村 仁男
47	第3063号	320列面検出器型CT(320-ADCT)における大動脈弁ポードラッキング法を用いた大動脈弁狭窄症の診断、予後の関連	大動脈弁狭窄症(AS)は日本人に最も多い弁膜症である。ASの重症度評価は、一般に心エコー図法を用いて算出されるが、算出値と実際の重症度が一致しないこともある。近年の画像診断の進歩により、マルチスライスCTでも冠動脈について評価できるようになり、経カテーテル的大動脈弁置換術前の標準的検査となったが、心臓CTが大動脈弁重症度の診断に有用であれば、術前検査とAS診断を一度に行える可能性があるため、検討を行う。	心臓CTを施行した結果、大動脈弁狭窄症が疑われた症例 平成25年4月1日～平成26年8月31日	100例	平成27年8月12日	平成29年3月31日	内科学 (循環器内科) 米山 喜平
48	第3076号	胸腔鏡下食道悪性手術における術中管理・術後合併症に関する検討	食道悪性手術は頸部、胸部、腹部と範囲が大きく、また術中、分離肺換気が必要とするため麻酔管理は同一麻酔科医が行っているが、手術手技、麻酔管理ともに難渋することが多い。周術期死亡率、合併症が多く見られたため、2014年4月より診療科にて打ち合わせを行い、食道悪性手術時の気管挿管チューブの選択、分離肺換気の方法などを変更している。今回、変更前後において術中合併症、術後転機がどのように変化したか調査を行う。	食道悪性腫瘍手術を施行した症例 平成24年4月1日～平成27年3月31日	30例	平成27年9月1日	平成28年12月31日	麻酔学 加藤 篤子
49	第3102号	心臓MRI検査と心臓超音波検査の心臓パラメータを比較する	心臓MRI検査は心臓の構造や機能、線維化の検出などあらゆる点で利点がある。近年、シネMRI画像のみで心筋重量や運動評価を簡易に定量することが可能(Feature tracking法)になり、心臓MRI検査の臨床応用の可能性が期待されている。本研究では、臨床において標準として使用されている心臓超音波検査と、新しいFeature tracking法の関連について観察する。	陳旧性心筋梗塞、狭心症、心筋症例 平成25年4月1日～平成27年8月5日	50例	平成27年10月19日	平成29年3月31日	内科学 (循環器内科) 米山 喜平
50	第3103号	心臓MRI検査と4次元心臓CT検査の心臓パラメータを比較する	心臓MRI検査は心臓の構造や機能、線維化の検出などあらゆる点で利点がある。また、心臓CT検査は冠動脈の狭窄の評価や心内血栓の評価に優れているものの、心臓CT検査での心筋性状の評価には検討すべき点が存在する。近年、4次元心臓CT検査が行われるようになり、臨床応用の可能性が期待されているが、本研究では、標準として施行されている心臓MRI検査と、新しい4次元心臓CT検査の関連について検討を行う。	陳旧性心筋梗塞、狭心症、心筋症例 平成25年4月1日～平成27年8月5日	50例	平成27年10月13日	平成29年3月31日	内科学 (循環器内科) 米山 喜平

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
51	第3107号	心臓カテーテル検査を施行した症例の予後におけるBMIの有用性について	心臓カテーテル検査で行われる冠動脈造影と左室造影は標準的に同時施行されている。冠動脈狭窄を描出することに加えて、左室駆出率や血行動態指標を同時に測定できることが利点である。Obesity paradoxという概念が提唱されており、BMIが高いほど心疾患患者が多い一方、BMIが低い心疾患患者ほど予後が悪いと言われる。上記の提唱をもとに今回、心臓カテーテル検査を施行した症例の予後についてBMIの有用性を検討する。	陳旧性心筋梗塞、狭心症、心筋症カテーテル検査を施行した症例 平成21年4月1日～平成24年8月31日	1,095例	平成27年10月13日	平成29年3月31日	内科学 (循環器内科) 米山 喜平
52	第3108号	軽微なコルチゾール産生副腎腫瘍における ¹³¹ I-adosterol scintigraphyの臨床的意義	副腎腫瘍における ¹³¹ I-adosterol scintigraphyの左右差の判定は判定者の主観により異なる可能性がある。腫瘍側ならびに健側での核種集積率のカットオフ値に明らかな基準はない。副腎性サブクリニカルクッシング症候群の診断基準である(1)ACTH分泌の抑制、(2)コルチゾール日内リズムの消失、(3)血中DHEA-Sの低値、(4)デキサメサゾン抑制試験におけるコルチゾールの自律性分泌、代謝合併症と照らし合わせることで ¹³¹ I-adosterol scintigraphyの集積率の基準を明らかにする。	¹³¹ I-adosterol scintigraphyを行ったクッシング徴候を伴わない片側性の副腎腫瘍。 (褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、副腎癌を除く) 平成15年4月1日～平成27年3月31日	100例	平成27年10月13日	平成29年3月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 石井 聡
53	第3126号	気道狭窄症例の気流制限解除前後での血管断面積と肺血流の関連	悪性腫瘍などによって気道狭窄をきたした症例に対して、気流制限解除を目的としてステント留置や気管支拡張などの呼吸器インターベンション治療が行われている。その治療効果判定の一環として肺血流シンチグラフィを治療前後で評価することがある。Rainerらは、片側気道狭窄に対して気流制限の解除を行うと、前後で血流シンチグラフィの均等化が認められることを報告している。またMatsuokaらの研究により定量的CTでの肺小血管断面積と、肺血流の相関が示されている。本研究の目的は、気流制限解除による肺血流の改善を評価する画像検査として、CTから測定される肺小血管断面積が、肺血流シンチグラフィの代替法となりうるか評価することにある。	悪性腫瘍によって気道狭窄をきたし、その後、呼吸器インターベンション治療により気流制限が解除され、その前後で胸部CTおよび肺血流シンチグラフィを施行した患者 平成23年1月1日～平成27年7月31日	10例	平成27年10月13日	平成29年3月31日	内科学 (呼吸器内科) 西根 広樹
54	第3127号	がん患者の終末期医療における看取り場所の希望：聖マリアンナ医科大学病院における後方視的検討	メディカルサポートセンター(MSC)では、特に在宅医療移行において、患者やその家族が望む場合に自宅での看取り(在宅死)も視野に含めた介入を心がけている。紹介先を決定するための患者や家族との面談では「生活の場」などの希望のみでなく「看取りの場所」に対する希望も聴取し、環境調整を行っている。事前に看取り場所の希望を聴取することは、終末期緩和医療において1つの目標となり、その後の診療や経過に大きく影響すると考えられる。本研究では、化学療法終了後に緩和医療へ完全移行する際に、看取り場所の希望を聴取することの意義や、その後の経過の実態を明らかにする。	腫瘍内科からMSCへ依頼した症例 平成24年1月1日～平成25年12月31日	200例	平成27年10月19日	平成28年7月31日	臨床腫瘍学 津田 享志

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
55	第3129号	外脛骨障害による成人期扁平足の診断と治療	外脛骨障害は日常診療で遭遇することが多い疾患であるが、保存療法に抵抗する例も少なくない。また、扁平足との関連性や、外脛骨障害に対する手術療法についても未だ確立されていない。本研究では、成人期の外脛骨障害症例の後脛骨筋腱-外脛骨-ばね靭帯複合部の鏡視およびMRI所見から扁平足変形への進展について病態を考察することと、外脛骨前進骨接合術の術後成績について検討を行う。	外脛骨障害 平成17年4月1日～ 平成27年7月30日	30例	平成27年10月13日	平成29年8月30日	整形外科 仁木 久照
56	第3142号	ポータブル胸部写真による胸腔内液体貯留評価	様々な病態を伴って救急外来を受診する患者や集中治療室に入院中の患者ではしばしば胸水が認められる。こうした患者に対して第一に行われる画像検査にはポータブルの胸部単純X線写真があり、迅速な診断や治療方針決定上、この画像で胸水の有無や経時変化を評価できる意義は大きい。本研究では、ポータブル胸部単純X線写真(以下、ポータブル胸部)上の画像所見を、同一時間帯に撮られた胸部CTをゴールドスタンダードとして対比し、胸水量とポータブル胸部上の画像所見との相関を評価し、ポータブル胸部で胸水量を予測できるか検討する。	ポータブル胸部の撮影前後1時間以内に撮影された胸部CTにて胸水が確認され、かつ肺野にその他の異常所見を認めないもの 平成24年11月30日～ 平成27年3月31日	500例	平成27年10月19日	平成29年3月31日	救急医学 松本 純一
57	第3143号	当院における糖尿病治療に関連した重症低血糖発症時の実態調査	糖尿病患者の慢性合併症の阻止には、より厳格な血糖コントロールが必要であり、薬物治療の進歩によりその目標は徐々に達成されつつあるが、一方で薬物治療に関連した低血糖のリスクが増大する危険も危惧される。重症低血糖は発症時に第三者を巻き込む事故の誘因となる可能性があり、可及的に回避すべき重要課題である。本研究では、当院における重症低血糖発症時の背景等を調査し、療養指導の充実化を図ることが目的である。	重症低血糖を発症した糖尿病症例 平成23年4月1日～ 平成26年3月31日	左記期間内に重症低血糖を発症した糖尿病症例全例	平成27年10月13日	平成31年3月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 加藤 浩之
58	第3149号	特発性食道破裂に対する手術症例の検討	特発性食道破裂は、嘔吐などによる急激な食道内圧の上昇によって食道壁が全層にわたり破裂し、胃内容物による縦隔および胸腔内の汚染をきたすまれな疾患である。治療が遅れると重篤な経過をとり致命的となるため、早期診断と適確な治療が重要となる。一般的には緊急の手術治療が選択されるが、穿孔部が縦隔に局限しており、臨床症状が軽度な症例では保存的治療も考慮される。本研究では当科で外科的治療を行った特発性食道破裂の症例について、後方視的に検討を行う。	特発性食道破裂 昭和62年1月1日～ 平成26年12月31日	10例	平成27年11月5日	平成28年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 民上 真也

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
59	第3153号	高安動脈炎と巨細胞性動脈炎の治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究	本研究は厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎の研究班として実施する研究である。平成19年4月1日から平成26年3月31日の間に高安動脈炎あるいは巨細胞性動脈炎と診断された方の中で、新たにステロイド療法が開始された症例あるいは再発例に対してプレドニン(PSL)0.5mg/kg以上を開始した方あるいは生物学的製剤の投与が新たに開始された方を対象とし、(1)疾患についての人口学的特徴と疾患特性、(2)実施されたステロイド療法・免疫抑制剤の内容と寛解導入率・再発率・予後(3)ステロイド治療の安全性、有害事象の発現状況を後方視的に検討する。	高安動脈炎、巨細胞性動脈炎 平成19年4月1日～平成26年3月31日	10例 (全体:高安動脈炎200例以上、巨細胞性動脈炎200例以上)	平成27年11月27日	平成29年3月31日	皮膚科学 川上 民裕
60	第3154号	虫垂炎に対する虫垂切除術を中心とした治療方針の妥当性の検討	虫垂炎は外科手術による治療が中心となるが、炎症の軽度な症例では保存的治療、膿瘍形成性虫垂炎に対しては急性期に保存的治療を行い、炎症改善後に手術を行うinterval appendectomyの方針を選択することも多い。本研究ではこれらの治療成績について後方視的に解析を行い、現行の治療方針の妥当性を検討する。	入院治療を行った虫垂炎症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	500例	平成27年11月4日	平成30年3月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
61	第3155号	膵体尾部切除術における手術手技および周術期管理と合併症発生との関係	膵体尾部切除術は合併症の一つである膵瘻の発生が多い。各施設で様々な工夫を行っているが、合併症の発生率は未だ十分に軽減できていない。膵瘻は入院期間の延長や、生命危機に至る可能性をも含む合併症であるが、発生率は10～20%とされている。本研究では膵切離方法による膵瘻の発生率の差異や、膵切離法以外の膵瘻発生因子を後方視的に検討する。	膵体尾部切除術を施行後に、膵瘻・SSIなどの合併症が発生した症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	120例	平成27年11月4日	平成30年3月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
62	第3156号	膵頭十二指腸切除術における手術手技および周術期管理と合併症発生との関係	膵頭十二指腸切除術は過大な侵襲を伴う術式であり、合併症も多い。各施設で様々な工夫を行っているが、合併症の発生は未だ十分に軽減できていない。術前栄養管理やシンバイオティクス、リンパ節郭清範囲、出血量や手術時間、膵空腸吻合手技、消化管吻合手技、予防抗菌薬、術後管理(Enhanced recovery after surgery)などの因子と術後合併症の発生との関連性について、後方視的に検討する。	膵頭十二指腸切除術を施行後に、膵瘻・SSI・胃内容排泄遅延・胆管炎・脂肪肝などの合併症が発生した症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	260例	平成27年11月4日	平成30年3月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
63	第3157号	腹腔鏡下胆嚢摘出術に関する検討	腹腔鏡下胆嚢摘出術は良性の胆嚢疾患に対する標準的な術式である。従来、同術式には臍に11～12mm、心窩部・右季肋部および右側腹部に5mm、計4本のポートを用いていたが、近年ではreduced port surgery(ポート数を減らす)を実施することも多い。しかし、reduced port surgeryは整容性に優れるが、手術侵襲を軽減できているかは未だ議論がなされている。本研究では当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績を後方視的に解析し、reduced port surgeryについて検討する。	腹腔鏡下胆嚢摘出術症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	500例	平成27年11月4日	平成30年3月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
64	第3158号	胆嚢炎に対する胆嚢摘出術の施行時期に関する検討	胆嚢炎に対しては外科手術が治療の中心となっているが、炎症の程度や患者の基礎疾患(抗凝固剤内服など)により、緊急手術・待機手術・胆道ドレナージ後の順緊急手術など手術時期は様々である。2015年に胆嚢炎・胆管炎の診療ガイドラインが発行され、おおむねガイドラインに沿った治療方針がとられているが、個々の症例における手術のタイミングについては施設間で若干の差があるのが現状である。本研究では当院における胆嚢炎症例の治療成績を後方視的に解析し、現行の治療方針が妥当であるか検討する。	入院治療を行った胆嚢炎症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	500例	平成27年11月4日	平成30年3月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
65	第3165号	重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	アルドステロン産生腺腫(PA)の病態・病型は多様であるが、その約10%を占めるPAは、軽症型である特発性アルドステロン症と比較してアルドステロン産生量が多く、標的臓器障害の頻度、予後の面からも重症型PAに位置づけられており、特異的な病型診断と効果の高い治療方針の確立が必須である。本研究では重症型PAの治療効果を高めるため、後方視的な検討を行い、(1)非観血的な検査のスコア化で病型予知が可能か、(2)副腎静脈サンプリング(AVS)の標準的な実施・判定法は何か、(3)手術・薬物治療の内、いずれの治療効果が高いかについて、3つの主要クリニカルクエッション(CQ)を解決し、診療ガイドライン改訂に資するエビデンスを構築する。	PAと診断され、原則としてAVSを実施された症例 平成18年1月1日～平成26年12月31日	100例 (全体1,500例)	平成27年11月10日	平成30年3月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 方波見 卓行
66	第3168号	舟状骨骨折の疫学調査および骨折形態、治療法の検討	舟状骨骨折は初診時に診断が困難な場合があり、患者の放置、医療者の見落としもしばしば散見されることがある。新鮮骨折ではスクリュー固定が標準的な治療になりつつあるが、舟状骨の特殊な形態から、その手術手技は決して容易でない。不適切なスクリュー固定、治療時期の遅れにより偽関節に陥ると、再手術や骨移植、血管柄付き骨移植が必要となり難渋する。診断においても単純X線画像では周囲手根骨との重なりにより正確な診断に習熟を要することから、早期診断・早期治療が原則であるが、このことは偽関節に陥る症例を減少させることにもつながる。以上から、本研究では舟状骨骨折における受傷機転・患者背景・診断方法・治療方法について後方視的に調査し、より正確な診断法、骨折形態の把握、適切な治療選択基準を見出す。	舟状骨骨折、舟状骨偽関節症例 平成19年1月1日～平成27年9月30日	100例	平成27年11月24日	平成28年9月30日	整形外科 内藤 利仁
67	第3169号	当院におけるオマリツマブ使用症例の検討	抗IgE抗体であるオマリツマブはアトピー素因を有する重症喘息症例に対して有効とされている。しかし、自覚症状が改善する患者は全体の70%程度であり、効果がない患者は30%程度存在する。また、呼吸機能も改善する患者数は少ないとされている。当院におけるオマリツマブ使用患者は発売当初より現在まで54例であり、神奈川県でも有数の使用施設である。本研究では、当院におけるオマリツマブ使用患者を後方視的に解析し、有効例と無効例の臨床背景について検討を行う。	気管支喘息症例 平成22年3月1日～平成27年9月30日	54例	平成27年11月26日	平成28年9月30日	内科学 (呼吸器内科) 【西部病院】 駒瀬 裕子

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
68	第3185号	高齢腎移植ドナーの予後について	腎移植は腎代替療法のオプションの一つであり、生体腎移植と献腎移植に分けられる。本邦の腎移植はそのほとんどが生体腎移植でありドナーが重要な役割を果たす。本邦では夫婦間生体腎移植も多く、ドナーに定める高齢ドナーの割合も大きい。当院における高齢ドナーの予後について調査する。	生体腎移植ドナー 平成10年1月1日～平成26年12月31日	約130例	平成27年12月14日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 今井 直彦
69	第3186号	再発子宮体がんの最適な治療法を探索するための後方視的研究	子宮体がんは増加傾向にあり、本邦での発生数もこの10年間で2倍以上となっているが、半数以上が低悪性度であることから、予後は良好である。ただし、再発率は低いものの、再発すると一般的に根治は難しく、子宮体がん治療ガイドラインでは患者の状態や再発部位、初回術後の補助療法の有無・内容によって手術療法や放射線療法、ホルモン療法、化学療法、支持療法を適宜、選択することとされている。子宮体がんの術後再発の好発部位は膣、骨盤内、腹腔内、遠隔臓器であり、現在は多くの施設で化学療法が行われているが、化学療法施行後の再発における、薬剤選択の明確な基準となるエビデンスはまだない。このため、本邦における初回治療後の再発子宮体がん症例の再発様式や時期、再発部位、施行した各種治療法の有効性、有害事象について、多施設後方視的調査研究で調査・検討を行い、再発子宮体がん患者に対する適切な治療アプローチに役立てる。	再発子宮体がん 1)組織学的に子宮体がんであることが確認されている症例 2)2005年1月1日以降に治療を開始し、2012年12月31日までに初回治療を終了した症例 3)2014年12月31日時点で再発が確認された症例 平成17年1月1日～平成27年4月1日	50例 (全体150例)	平成28年02月09日	平成30年03月31日	産婦人科学 細沼 信示
70	第3188号	外傷性膵損傷に対する治療方針に関する検討	外傷性膵損傷は、頻度は少ないが救命率が低く、難治性のものである。損傷の程度と全身状態によって、保存的治療や内視鏡的膵管ドレナージ、緊急手術の方針をとるが、画一した治療方針はなく、施設ごとで異なるのが現状である。当院で経験した外傷性膵損傷の症例を検討し、当院における治療方針の妥当性について検討する。	外傷性膵損傷例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	10例	平成27年12月14日	平成30年03月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
71	第3189号	特殊型膵癌における臨床病理学的特徴に関する検討	膵臓癌の多くは管状腺癌であるが、約2%に腺扁平上皮癌を、また0.2%に退形成癌を認める。これらは特殊型膵癌と呼ばれ、まれな組織型の膵癌である。特殊型膵癌は管状腺癌と比べ大型で発見されることが多く、膨張性発育を呈し、やや血流が多い腫瘍として画像所見でとらえられる。また管状腺癌より予後不良と報告されている。しかし、症例数が少ないため生物学的特徴は未だ不明な点が多い。当院で経験した特殊型膵癌の症例について臨床病理学的検討を行い、その特徴を見出すことを目的とする。	特殊型膵癌症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	20例	平成27年12月14日	平成30年03月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
72	第3190号	膵頭十二指腸周囲における血管解剖変異に関する検討	膵頭十二指腸切除術は工程の多い術式であり、特に肛門部および上腸間膜動脈(SMA)周囲の廓清を要するので、同部の複雑な脈管解剖についての知識を要する。一方で肝動脈、胆管、上腸間膜動脈の分枝は分岐・合流形態に変異があり、個々の症例で術前に変異を知ることが重要である。一般にリンパ廓清は領域動脈をenblockに切除するが、主要動脈がreplaseしている場合には動脈を温存しつつ廓清を行う必要があり、廓清手技が煩雑となる。本研究では肝動脈、SMA、上腸間膜静脈(SMV)の変異形態の頻度を検討するとともに、正常解剖症例と変異症例を比較して手技が煩雑となるか、またリンパ再発が多いかどうかを検討する。	膵頭十二指腸切除術を施行した症例 平成17年1月1日～平成27年10月5日	260例	平成27年12月14日	平成30年03月30日	外科学 (消化器・一般外科) 小林 慎二郎
73	第3215号	リコンビナントロモジュリンがDIC治療に与える影響	リコンビナントロモジュリン(rhTM)の治療効果に関するエビデンスは十分とは言えず、海外における第Ⅲ相試験(ART-123 trial)が現在進行中である。当院では2010年以降、その治療効果が明らかでないことから、救命病棟では使用せず、一般病棟では適応があれば使用する治療体制をとってきた。これらの結果を調査し、敗血症性DIC治療に与えたrhTMの治療効果を明らかにする。	播種性血管内凝固症候群 平成22年1月1日～平成27年9月30日	100例	平成28年01月20日	平成32年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 片山 真史
74	第3217号	原発性アルドステロン症患者における心血管イベント発症について	原発性アルドステロン症(PA)では、本態性高血圧症(EH)よりも心血管イベントが多いことが知られている。しかしながら、PA患者で手術治療もしくはミネラルコルチコイド受容体拮抗薬(MRB)による介入後の心血管イベント(CVEs)についての報告は少ない。また長期フォローの研究データもほとんどない。従って、本研究ではPA患者とEH患者における心血管イベント発症について、長期介入での発症頻度を検討する。	2006年1月から2015年1月までの間に当院でPAもしくはEHと診断された20～90歳の症例 平成18年1月1日～平成27年1月1日	200例	平成28年01月26日	平成29年08月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 【西部病院】 福田 尚志
75	第3224号	大動脈弁狭窄症における新たな心エコー図指標の検討	大動脈弁狭窄症は最も頻度の高い弁膜症であり、超高齢社会を迎えた日本において爆発的に増加している。大動脈弁狭窄症における重症度診断のゴールドスタンダードは心エコー図であり、弁口面積、最高血流速度、平均圧較差に乖離を認める症例が多く存在することが報告され、重症度診断に悩む症例も少なくない。また、低圧較差の群に関する予後に関しては一定の見解が得られてなく、その治療方針決定に関しても日常臨床において大変重要な問題である。今回、我々は動脈弁位ドップラー波形から、弁口面積や圧較差ではない時相解析による新たな目標、acceleration time/ejection time ratioが重症度診断及び予後推定に有用であるかどうかを検討する。	経胸壁心エコー図を施行した大動脈弁狭窄症例 平成24年12月1日～平成27年3月31日	300例	平成28年01月26日	平成30年03月31日	内科学 (循環器内科) 出雲 昌樹

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
76	第3227号	当院における腎移植症例の臨床的検討	腎不全患者が腎移植施設を選択する時には、その施設の成績がwebsite上に公表されていることを重視しており、当院では腎移植の成績を常に公表し、更新する必要がある。このため、患者の年齢・性別・原疾患・透析歴・免疫抑制法の種類・ドナーの年齢・性別・腎機能・血液型の一致・不適合などの基本情報に加え、拒絶反応の発症率・移植腎生着率・移植患者生存率・ドナーの予後などを継続的に調査研究を行う。	当科で施行した腎移植症例およびそのドナー 平成10年7月1日～平成27年12月31日	164例	平成28年01月26日	平成28年12月31日	腎泌尿器外科学 力石 辰也
77	第3228号	当院における泌尿器科系がん患者の治療成績に関する検討	人口の高齢化に伴い、悪性疾患で死亡する患者数は増加しているが、当院は急性期病院であることから、自ら治療した患者を最期まで経過観察することは容易でない。一方、患者が治療施設を選択する際は各施設のwebsite上で公表されている治療成績を参考にすることが増えている。このため、当科で治療を行った泌尿器科系がん患者(腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌)について、その治療成績を把握するとともに、公表することを目的として調査を行う。	当科で治療を行った泌尿器科系がん患者(腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌) 平成12年1月1日～平成27年12月31日	500例	平成28年02月22日	平成30年12月31日	腎泌尿器外科学 力石 辰也
78	第3229号	心房細動患者に対する新たなリスク層別化:心エコーによる検討	心房細動は65歳以上の約4%に認められ、先進諸国において増加の一途を辿っている。心房細動の大きな問題点の一つとして心原性血栓塞栓症が挙げられ、そのリスク層別化に臨床情報を用いたCHADS2スコアが簡便かつ有効な指標として広く使用され、抗凝固薬の適応基準として用いられている。しかしながらCHADS2スコア低リスク群でも塞栓症は約2.8%の確率で発症しており、低リスク群に対する抗凝固薬に関して、一定の見解は得られておらず、更なる層別化が望まれている。血栓リスク評価として塞栓源である左心耳機能の経食道心エコー図による直接評価が古くから用いられているが、経食道心エコー図は侵襲的であり、心房細動患者全例に対して行うことは不可能である。今回、我々は経胸壁心エコー図による血栓塞栓症リスク層別化が可能かについて検討を行う。	経食道及び経胸壁心エコー図を施行した心房細動患者 平成23年4月14日～平成26年5月12日	300例	平成28年01月26日	平成29年03月31日	内科学 (循環器内科) 出雲 昌樹
79	第3256号	特発性間質性肺炎合併肺癌患者の内科治療に関する後ろ向き調査	特発性間質性肺炎(IIPs)には高率に肺癌が発生し、特に特発性肺線維症(IPF)での肺癌の発生率は10～30%、相対リスクは7～14倍とされる。IIPsに合併した肺癌に対して治療を行う場合、手術、放射線療法、化学療法のいずれも急性増悪の契機となることが問題になる。IIPs合併進行/術後再発肺癌に対しては化学療法や緩和療法が行われるが、化学療法の大規模な前向き試験はなく、緩和療法単独の頻度も明らかでない。このため、IIPs合併進行肺癌の治療について、ガイドライン策定に寄与する最新の実態調査を行うことを目的とする。さらに、化学療法の効果と急性増悪の危険因子を検討する。また、緩和療法単独が選択された症例に関する検討を行う。	20歳以上の下記症例 (1)IIPsに合併した進行肺癌(臨床病期:IV期または術後再発) (2)原発性肺癌の病理診断例 平成24年1月1日～平成25年12月31日	期間中に該当する全例(全体3,000例)	平成28年04月14日	平成30年12月31日	内科学 (呼吸器内科) 峯下 昌道

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
80	第3257号	子宮頸部細胞診におけるASCの検討	子宮頸部細胞診の診断に意義不明の異型細胞(ASC)という分類がある。ほとんどの場合は軽度異形成程度の異常であるが、稀に浸潤癌が発見されることがあり、臨床的に慎重な対応をする必要がある。今回の検討でASCと診断された症例の最終組織診断と調査し、細胞の所見の特徴や臨床的な対応の妥当性について検討する。	子宮頸部細胞診結果がASCの症例 平成21年9月1日～平成27年9月30日	4,000例	平成28年03月01日	平成28年12月31日	産婦人科学 戸澤 晃子
81	第3258号	皮膚科における皮膚悪性腫瘍患者の統計的解析	わが国における皮膚悪性腫瘍の発生数や予後、治療方法に関しては、全国的な統計調査が行われていないこともあり、不明な点が依然として多い。皮膚悪性腫瘍の発生数に関しては、高齢化に伴い増加している印象はあるものの、それを裏付けるデータは不十分である。また、皮膚悪性腫瘍は皮膚という目に見える場所に発症するにも拘わらず、受診が遅れることがしばしば指摘されているが、具体的なデータが未だ乏しい。今回、当科における2000年から2015年の皮膚悪性腫瘍患者に関して統計学的調査を行い、発生数や予後、治療方法、受診までの期間などについて分析を行う。	皮膚悪性腫瘍 平成12年1月1日～平成27年12月31日	300例	平成28年03月01日	平成29年12月31日	皮膚科学 門野 岳史
82	第3259号	本邦における悪性腫瘍合併妊娠の調査	本邦における昨年1年間の悪性腫瘍合併妊娠を集積し、現在行われている治療方法を明らかにし、その治療効果、ならびに悪性腫瘍の治療が妊娠・分娩・産褥にどのように影響したかを解析し、今後の治療方針の一助とすることを目的とする。また、悪性腫瘍の治療が、出生時の胎児状況にどのように影響したかを解明する。	悪性腫瘍合併妊娠 平成26年1月1日～平成26年12月31日	1例 (全体223例)	平成28年03月01日	平成29年06月30日	産婦人科学 鈴木 直
83	第3261号	乳房MRIにおけるBPEと乳癌サブタイプの検討	乳癌画像診断においてMRIは感度が高い検査である。一方、背景乳腺の増強効果(BPE:Background Parenchymal enhancement)により診断に苦慮する症例もある。BPEは月経周期に影響されることが知られており、また乳癌もホルモン依存性がある。乳癌は病理検体よりエストロゲン受容体(ER)、プロゲステロン受容体(PgR)、HER2の発現状況を測定し、生物学的性状の異なるサブタイプに分類することにより予後予測や治療方針決定がなされている。過去にBPEが乳房MRIの病変検出感度・特異度に影響するという報告はあるが、BPEとサブタイプについて検討した報告はない。そこで今回、我々は月経周期をガイドライン推奨期間に合わせて乳房MRIを施行した乳癌症例について、BPEとサブタイプに傾向がないか検討する。	乳癌(月経周期をガイドライン推奨期間に合わせて術前乳房MRIを当院で施行し、手術検体で病理学的診断がなされている症例) 平成22年1月10日～平成27年7月30日	80例	平成28年03月01日	平成29年03月31日	プレスト&イメージング 先端医療センター 後藤 由香

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
84	第3267号	院内での遡及的調査に基づいた硬膜外穿刺後頭痛の予防・治療法の検討	硬膜穿刺後頭痛は、脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔に伴う合併症であり、発生してしまうと追加治療を要することや、入院期間延長など、患者のQOLに影響する。この研究の目的は、当院でインシデントレポートにより硬膜穿刺後頭痛として報告された症例から、頭痛発生の背景、症状の程度、対応を遡及的に調査検討する。その結果から、硬膜穿刺後頭痛に対する治療・管理マニュアルを作成する。	インシデントレポートで報告された硬膜穿刺後頭痛症例 平成20年4月1日～平成27年3月31日	10例	平成28年03月15日	平成29年03月31日	麻酔学 佐藤 弥生
85	第3270号	当科における気管切開の臨床統計的検討	最近2年間で気管切開後両側気胸が生じた症例が2例あった。気管を逆U字に切開する施設が多い中、当科では伝統的に横切開を行い皮膚と気管を上下で数か所縫合する方法を行っている。今回、臨床統計にて合併症の頻度を中心に検討し、横切開の利点、欠点を考察する。また気胸が生じた機序についても考察する。	気管切開を施行した症例 平成22年4月1日～平成27年11月30日	250例	平成28年03月15日	平成29年03月31日	耳鼻咽喉科学 春日井 滋
86	第3271号	副神経を保存した頸部郭清術における肩関節機能について	頸部郭清術後患者のQuality Of Life (QOL)を低下させる要因として副神経障害は重要な位置を占めており、術後のリハビリテーション(rehabilitation: RE)の重要性が報告されるようになった。副神経を切断した症例だけでなく、温存した症例においても早期に適切なREが行われないと癒着性関節包炎をきたし、肩関節可動域制限や疼痛につながると報告されている。今回、副神経を保存し、早期からREを導入した症例の肩関節機能における経時的な変化について検討する。肩関節機能で副神経の麻痺の頻度、回復率、回復までの期間などを導き出す。	頭頸部癌で頸部郭清を施行した症例 平成20年4月1日～平成27年3月31日	50例	平成28年03月15日	平成29年03月31日	耳鼻咽喉科学 春日井 滋
87	第3272号	甲状腺手術における反回神経麻痺症例の検討	甲状腺手術時、反回神経を温存しえたと考えられる症例でも麻痺を来すことがある。また術直後に麻痺を認めず、翌日以降に麻痺を認めることも稀にある。神経を温存したにもかかわらず、術後反回神経麻痺を認めた症例を中心に、可動性回復までの期間や麻痺の要因などについて検討する。	当科で甲状腺手術を施行した症例 平成20年4月1日～平成25年3月31日	約100例	平成28年03月15日	平成29年03月31日	耳鼻咽喉科学 春日井 滋
88	第3274号	当院における癒着胎盤症例の周術期管理の検討	癒着胎盤は近年の帝王切開術の施行頻度上昇に伴い増加している。その分娩管理方針については現在のところ、一定の見解が得られておらず、症例ごとに慎重に検討されているのが現状である。関連各科の連携が重要であり、周術期において麻酔科の担う役割は非常に大きい。今回、当院の過去の癒着胎盤症例に関し、患者年齢、帝王切開時の手術時間、麻酔時間、術中出血量、術後合併症等の項目について、治療方針の違いにより差が生じるかを検討する。	癒着胎盤症例 平成23年4月1日～平成27年3月31日	15例	平成28年03月15日	平成28年12月31日	麻酔学 升森 泰

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
89	第3283号	非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制に用いられる新規経口抗凝固薬(NOACs)の使用実態調査。	医薬品使用実態調査Medication Use Evaluation(MUE)とは、医薬品の使用のみならず、医薬品使用プロセス等の実態を把握することにより、医薬品適正使用の推進・患者の安全の向上を図るものである。MUEは他職種連携で行うことで、調査結果を臨床現場に反映できるとされる。当院では平成23年よりMUEを実施し、平成26年からは薬事委員会の同種同効薬による採用基準が改訂され、既存の同種同効薬の採用がある場合は原則、後発医薬品等の廉価な薬剤を優先し、有効性や安全性に明らかな差がない場合は採用していない。また同種同効薬は原則、2剤までとし、経済性を考慮した「フォーミュラリー」を作成し、院内の使用推奨基準を設けることとなった。今回、ダビガトラン(プラザキサ)、リバーロキサバン(イグザレルト)、アピキサバン(エリキュース)、エドキサバン(リクシアナ)のフォーミュラリー作成のため、院内での使用実態調査を行う。	(1)当院で治療を開始したプラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナを処方された非弁膜症性心房細動症例 →平成27年9月1日～平成28年2月29日 (2)虚血性脳卒中(心原性または原因不明)を発症した患者で上記のNOACsまたはワーファリンの治療を受けていた症例 →平成23年3月1日～平成28年2月29日	(1)100例 (2)100例	平成28年03月14日	平成29年03月31日	薬剤部 土岐 真路
90	第3287号	IgA腎症における病理組織分類(Oxford分類)を用いた予後予測モデルの構築	IgA腎症は20年以上の経過で約4割が末期腎不全に至る予後不良の疾患である。このため、医師・患者双方にとって正確な予後および治療効果の予測を行うことが必要であり、特にステロイド治療を行う場合については重要と考えられる。しかし、現時点で報告されている予測モデルは、血圧や蛋白尿について2年間の観察期間を要することなどから、診断時の意思決定に用いることが困難である。IgA腎症における病理組織所見は診断の根幹をなし、潜在的なリスクの検討が可能である。以前は再現性と外的妥当性の高い病理組織分類が存在しなかったが、近年報告されたOxford分類は再現性が高く、腎機能の進展に対して腎機能・血圧・蛋白尿と独立した因子であることから、これらの問題点を解決しようものと考えられている。本研究ではこのOxford分類を基に予後予測モデルを構築し、複数のコホート研究において検証を行うことを目的とする。	IgA腎症 平成20年1月1日～平成27年12月31日	70例 (全体400例)	平成28年04月14日	平成28年09月30日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 市川 大介
91	第3288号	全国肺癌登録調査;2010年肺癌手術症例に対する登録研究	本研究の目的は2010年の本邦における原発性肺癌手術症例の詳細と手術治療成績を解析し、今後の治療成績の向上に役立て、臨床研究成果を国内外に発信し、世界の肺癌治療の成績向上に貢献することである。	肺癌症例 平成22年1月1日～平成22年12月31日	90例 (全体15,000例)	平成28年03月28日	平成29年12月31日	外科学 (呼吸器外科) 佐治 久
92	第3292号	腹膜透析患者における頸動脈硬化と外来血圧変動性の関連	腹膜透析患者において心血管イベントは重要な死亡イベントである。また、経動脈硬化は心血管イベントの重要な予後予測因子となることが知られている。近年、一般人で外来血圧変動性が脳卒中・総死亡の独立した予測因子であることが大規模研究で示され、高齢者において外来血圧変動性が頸動脈硬化と関連することが報告された。しかし、腹膜透析患者における外来血圧変動性と頸動脈硬化の関連性については報告がないため、本研究では後方視的に解析を行う。	月1回の外来受診を12回連続で行った症例のうち、2015年2月に頸動脈超音波検査を施行した症例 平成26年2月1日～平成27年2月28日	26例	平成28年04月14日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 櫻田 勉

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
93	第3304号	難治性副腎疾患の診療の質向上と病態解明に関する研究	本研究では、難治性副腎疾患の代表疾患である副腎腫瘍のうち、褐色細胞腫(PHEO)、副腎腺腫によるクッシング症候群(CS)およびサブクリニカルクッシング症候群(SCS)、ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成(AIMAH)、副腎皮質癌(ACC)を対象として1)新たな診断・治療法の開発の基盤となる疾患レジストリーの構築と疾患コホートの形成、多施設共同研究体制の構築、2)診療ガイドラインの質向上に資する検査・治療法、疾患予後に関するエビデンス創出を目的とする。	褐色細胞腫、クッシング症候群、サブクリニカルクッシング症候群、AIMAH、副腎皮質癌、非機能性副腎腫瘍 平成18年1月1日～平成27年12月31日	150例 (全体1,050例)	平成28年04月22日	平成30年03月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 【西部病院】 方波見 卓行
94	第3305号	ループス腎炎患者の長期的予後の解析	ループス腎炎の予後は改善したとされるが、日本人における長期的予後解析は十分なされていない。近年、生命予後だけでなく治療関連の副作用などで生じる臓器ダメージに着目した解析が重要視されている。よって、本研究では通常診療で得られた診療情報を基に、臓器ダメージと長期予後の関係、その予後予測因子を同定する。	当院を受診し、1987年のアメリカリウマチ学会の分類基準を満たし、腎生検で診断したループス腎炎、もしくはそれに準ずる症例。ただし、追跡不能例は脱落例とする 平成13年1月1日～平成28年3月6日	100例	平成28年04月18日	平成30年03月06日	内科学 (リ・膠・ア内科) 花岡 洋成
95	第3307号	当院におけるIPMNの現状把握と分析	膵管内乳頭粘液性腫瘍(Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm: 以下、IPMN)は膵管上皮に発生する嚢胞状の腫瘍性病変である。ほとんどが予後良好であるが、IPMNの数%は悪性化することや膵癌の危険因子であるとされている。悪性化の危険因子には嚢胞径と嚢胞内部の壁に結節の有無・大きさで手術を検討するようガイドラインが示されているが、手術された中には良性のものも存在する。その他の危険因子や有病率など不明な点も多く、現在本邦では多くの施設で臨床研究がなされている。今回、当院でのIPMNの現状把握と悪性化の危険因子などを分析する。	膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)、その他の膵腫瘍性疾患 平成25年1月1日～平成28年3月31日	500～600例	平成28年05月09日	平成29年03月31日	内科学 (総合診療内科) 松田 隆秀
96	第3310号	SAPHO症候群の臨床的特徴の解析	SAPHO症候群(掌蹠膿疱症性関節炎)は掌蹠膿疱症にリウマチ反応陰性の関節炎が伴う疾患で、皮膚症状が先行しない症例もある。SAPHO症候群は希少疾患であるため、症例報告に留まったものが多く、まとまった報告は少ない。当科のSAPHO症候群の臨床的特徴の解析を行う。	掌蹠膿疱症、掌蹠膿疱症性関節炎(SAPHO症候群)と診断された症例 平成16年4月1日～平成27年12月31日	50例	平成28年04月22日	平成30年12月31日	内科学 (リ・膠・ア内科) 永淵 裕子
97	第3316号	慢性心房細動患者に対してのカテーテルアブレーションが左室機能に与える影響。Speckle-Tracking Echoを用いた検討	慢性心房細動に対してのカテーテルアブレーションは、治療法の一つとして選択されているが、アブレーションが左室機能に与える影響はまだ不明な点が多い。心機能評価として心臓超音波検査を用いて、更に正確な評価が可能なSpeckle-Tracking Echoにより、アブレーション前後の左室機能に与える影響を評価する。	慢性心房細動と診断された症例 平成18年8月1日～平成23年12月31日	33例	平成28年04月22日	平成30年12月31日	内科学 (循環器内科) 松田 央郎

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
98	第3317号	大学病院での外科医を中心とした緩和ケアとチーム医療の有用性	近年、我が国において緩和ケアの認識が高まり、その必要性が増している。その中で多くの癌患者の治療を行う大学病院においても、緩和ケアの重要性が増していると考えられる。そこで、当科では癌患者の多くの治療過程に携わる消化器外科医が多職種による緩和ケアチームを結成した。今回、緩和ケアチームの結成過程、チーム結成後の効果について検討する。	入院中の癌性疼痛を訴える消化器癌患者 平成17年8月1日～平成18年7月31日	100例	平成28年04月22日	平成29年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 四万村 司
99	第3318号	変形性足関節症に対する画像診断、関節鏡診断による重症度評価・疫学研究	変形性足関節症の重症度評価法として、X線学的に評価できる高倉分類が重症度判定、治療方針決定に際し重要な役割を担ってきた。一方で変形性関節症全般においては近年、X線学的所見と合わせてCTやMRI、関節鏡などの診断ツールが普及し、X線診断では得られない関節軟骨周辺の状態などから重症度や予後を判定する方法が注目されている。しかし、足関節領域においては未だこれらの評価法による重症度評価や予後予測に対する一定した見解は得られていない。本研究の目的は変形性足関節症の重症度や長期予後を推定する画像診断所見、関節鏡所見を明らかにすることである。	下記期間中に変形性足関節症と診断された患者 平成15年1月1日～平成27年12月31日	1,000例	平成28年04月22日	平成30年12月31日	整形外科 三井 寛之
100	第3324号	副腎、下垂体腫瘍におけるデキサメサゾン抑制試験の臨床的意義と問題点に関する検討	我が国の診断基準によると、副腎性サブクリニカルクッシング症候群(SCS)にはデキサメタゾン(Dex)1mg～8mg負荷が、下垂体性(SCD)にはDex0.5mg～8mg負荷が推奨されているが、しかしDex 0.5mgと1mg、8mg負荷後のコルチゾール濃度と、Dex血中濃度も含め比較した論文報告はほとんどない。SCSとSCDではACTH抑制の差が負荷後コルチゾール値に影響する可能性が推測される。また、2008年の米国内分泌学会のクッシング症候群ガイドラインでは唾液中のコルチゾールの測定を推奨しているが、判定基準値に関する国際的合意はない。そこで、液体クロマトグラフィー・タンデム型質量分析(LC-MS/MS)を用いたDex血中濃度測定、Dex 0.5mg、1mg、8mg負荷前後の唾液中の値を比較検討する。	副腎腫瘍 平成15年4月1日～平成27年3月31日	100例	平成28年05月09日	平成30年03月31日	内科学 (代謝・内分泌内科) 【西部病院】 方波見 卓行
101	第3327号	3D心エコー図による大動脈弁閉鎖不全症の定量的評価の妥当性:MRIとの比較	高齢化が進む先進諸国において大動脈弁疾患の罹患率は増加傾向にある。大動脈弁閉鎖不全症(AR)における重症度評価は心エコー図がゴールドスタンダードであり、2D心エコー図により算出される逆流流量や有効逆流弁口が推奨されている。しかしながら、逆流弁口が円であることや、吸い込み血流が半円球であることなど様々な仮定のもとに算出されており、日常診療においてARの臨床像と心エコー図による重症度とに乖離を認める症例が少なくない。近年開発された3D心エコー図は仮定を用いることなく逆流弁口を計測することができ、より正確なARの定量的評価及び重症度診断が可能である。今回、我々は3D心エコー図によりAR定量的評価を行い、MRIとの比較検討することにより、その妥当性を検証する。	2D、3D心エコー図及び心臓MRIを施行した大動脈弁閉鎖不全症例 平成24年2月13日～平成28年3月23日	50例	平成28年05月09日	平成29年05月08日	内科学 (循環器内科) 出雲 昌樹

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
102	第3328号	大動脈弁狭窄症における新たな重症度指標:経胸壁心エコー図Mモード法による大動脈弁位時相解析の有用性	硬化性大動脈弁狭窄症は、超高齢化を迎えた先進諸国において爆発的に増加している。大動脈弁狭窄症の重症度は経胸壁心エコー図から得られる平均圧較差と弁口面積により診断されるが、近年、圧較差と弁口面積とに乖離を認める症例が30%程あると報告されており、重症度診断に悩む症例も少なくない。近年、左室駆出率が保たれている症例において、弁口面積が小さいにも関わらず圧較差が低い症例が存在し、更にその予後は不良であると報告されている。今まで中等度と診断されていた症例においても予後良好・予後不良例が混在しており、一定の見解が得られていないため、重症度診断に関して新たな指標が求められている。経胸壁心エコー図Mモード法は開発当初から弁動態や心機能解析に応用されている古典的な方法であるが、時間分解能に優れ、広く普及した検査方法である。今回、経胸壁心エコー図Mモード法を応用した大動脈弁位時相解析が、大動脈弁狭窄症の重症度診断に有用であるか検討を行う。	経胸壁心エコー図を施行した大動脈弁狭窄症例 平成27年3月～平成28年3月24日	250例	平成28年05月16日	平成29年03月24日	内科学 (循環器内科) 出雲 昌樹
103	第3329号	脳動脈瘤クリッピング術におけるMEP刺激方法とその影響の検討	脳動脈瘤クリッピング術における合併症の中にクリッピング後の脳虚血における術後運動麻痺があるため、脳虚血モニタリングとして有用な術中運動誘発電位(Motor Evoked Potential: MEP)モニタリングを行っている。今回、刺激方法を検討し変更したことから、変更前後でのMEPモニタリングへの影響と術後麻痺の有無を検討する。	脳動脈瘤クリッピング術時にMEPモニタリングを施行した症例 平成20年5月13日～平成28年2月29日	100例	平成28年05月20日	平成28年12月30日	クリニカルエンジニア部 西原 恵理子
104	第3336号	食道大動脈瘻に対してステントグラフトで救命した2例	食道癌の治療において、食道大動脈瘻は致命的な合併症であり、突然死の報告が多い。当院で食道癌治療中に食道大動脈瘻を合併し、大動脈グラフトにて救命した2例について、報告を行う。	当院で治療した食道癌のうち、院内で食道大動脈瘻を起こし大動脈グラフトで救命した症例 平成22年7月1日～平成26年8月31日	2例	平成28年05月24日	平成28年12月31日	臨床腫瘍学 谷山 智子
105	第3337号	T4食道癌の瘻孔形成における臨床経過について	T4(癌腫が食道周囲臓器に浸潤している)食道癌の合併症である瘻孔形成はQOLを損ね、予後不良とされるが、詳細なデータは少ない。T4に対する治療戦略も、通過障害があれば放射線化学療法を行うのが標準とされているが、比較第Ⅲ相試験はほとんどない。さらに、放射線化学療法における瘻孔の頻度や瘻孔例の臨床経過に関する詳細なデータはない。T4食道扁平上皮癌と診断した症例の臨床経過および、瘻孔形成例における臨床的特徴および画像的予測所見を探索的に検討することは、治療前患者への情報提供の観点から意義のあることである。	T4食道癌と診断された症例のうち、当院で治療(緩和も含む)をした症例。ただし、腺癌は除く。セカンドオピニオンや、受診直後に転院した症例は除く。 平成22年7月1日～平成26年8月31日	39例	平成28年05月24日	平成28年12月31日	臨床腫瘍学 谷山 智子
106	第3338号	セツキシマブ併用放射線療法に関する有害事象の検討	2012年から頭頸部癌の標準治療の一つに加わったセツキシマブ併用放射線療法は、従来の化学放射線療法では見られなかった有害事象がある。当院で経験した有害事象をまとめ、その対策を検討する。	頭頸部癌 平成25年8月1日～平成28年4月5日	30例	平成28年05月24日	平成30年03月31日	耳鼻咽喉科学 赤澤 吉弘

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
107	第3339号	透析後ヘモグロビン濃度が血管アクセスに与える影響の検討	現在、血液透析患者の腎性貧血の管理について、本邦・西欧諸国から多くのガイドラインが発表されているが、いずれもその根拠となる臨床研究は透析前のヘモグロビン(Hb)濃度について検討されたものである。一方でHb濃度は透析後に濃縮されることが予想されているにも関わらず、透析後Hb濃度が患者に与える影響を検討した臨床研究は、現在に至るまでほぼない。本研究では、透析後におけるHb濃度が血管アクセスの予後とどのように関連するかを明らかにする。また、現在、標準的な指標として用いられている透析前Hb濃度で検討されたアウトカムとの関連とも、効果指標について比較検討する。	慢性腎不全、維持血液透析施行中の症例 平成22年4月1日～平成27年3月31日	51例 (全体150例)	平成28年05月24日	平成29年03月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 谷澤 雅彦
108	第3340号	慢性腎臓病教育入院が腎機能低下速度へ及ぼす影響とその要因に関する検討	当院では2011年1月より、慢性腎臓病患者に対する1週間の教育入院を実施している。その効果については第54回日本腎臓学会学術総会において、入院後の腎機能低下速度が入院前と比較して緩徐となることを報告した。しかし、この教育入院がどのような背景をもった慢性腎臓病患者に対して有効であったかについて明らかとなっていない。このため、入院前・入院後の腎機能低下速度を比較し、患者背景との関連性について後方視的に検討する。	慢性腎臓病教育入院を行った症例のうち、入院6カ月前と入院6カ月後の血清Crが測定されている患者 平成23年1月1日～平成27年12月31日	100例	平成28年05月24日	平成28年12月31日	内科学 (腎臓・高血圧内科) 櫻田 勉
109	第3341号	経動脈狭窄症に対するステント留置術後に合併する微小脳梗塞の病態調査	一般的に、頸動脈狭窄症に対するステント留置後には20～50%の割合で無症候性の微小脳梗塞が生じると言われる。その因子としてプラークの脆弱性、アプルーチルートの動脈硬化性変化、術前の脳血流量、術中や術後の低血圧などが挙げられる。また我々は治療側大脳だけでなく、対側大脳や小脳にも認められることに以前より注目しており、これらの因子を解明し、報告したい。	頸動脈狭窄症 平成25年4月1日～平成28年2月29日	60例	平成28年05月20日	平成30年03月31日	脳神経外科学 伊藤 英道
110	第3342号	Computed Tomography Colonography(CTC)を用いた直腸癌に対する腹腔鏡下手術の難易度に関連する因子の検討	現在、大腸癌治療ガイドライン(2014年度版)では、直腸癌に対する腹腔鏡下手術の有効性と安全性が十分に確立されていないとしており、今後、腹腔鏡下手術の普及が進むにつれて、この有効性、安全性に関するデータが必要と考えられる。そこで今回、Computed Tomography colonography(CTC)を用いて得られる骨盤容積、直腸容積、腫瘍容積を数値化し、占有率を算出することにより、実際に腫瘍容積が大きいほど手術難易度が増すかどうか、また骨盤容積、直腸容積、腫瘍容積が術後の生存率に与えるか等を検討する。	直腸癌(Rs、Ra、Rb)で術前にComputed Tomography Colonography(CTC)を施行し、直腸癌に対する手術を行った症例 平成24年10月1日～平成27年12月31日	100例	平成28年05月20日	平成29年03月31日	外科学 (消化器・一般外科) 牧角 良二

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
111	第3343号	当院周産期センターNICUにおける27年間の診療実績の総括-神奈川県周産期医療の地域化(Regionalization)の変遷に照らした考察-	周産期医療が抱える人材確保という普遍的問題を検討する際、自施設の診療実績を周産期医療の地域化(Regionalization)の歴史と変遷に照らして検証し、把握しておくことは、新たな人材確保に説得力をもって理解を得るために重要なことであると考えられる。そこで、当院周産期NICUの開設から27年間の診療実績を3期(前、中、後期)に分け、神奈川県の周産期医療の地域化の歴史と変遷に照らして検証し、今後の課題と未来に向け果たすべき役割を明確にする。	下記期間中に当院NICUに入院した症例 昭和63年5月1日～平成25年3月31日	5,182例	平成28年05月26日	平成29年03月31日	小児科学 (周産期センター) 【西部病院】 正木 宏
112	第3353号	我が国における前置癒着胎盤の周産期管理に関する調査	前置胎盤は分娩時に大量出血を生じる妊娠異常の一つである。帝王切開術や子宮内容除去術などの既往子宮手術後における前置胎盤例では、胎盤が筋層に強固に付着する「癒着胎盤」の合併に留意する必要がある。「前置癒着胎盤」症例の周術期管理は(1)子宮全摘出術、もしくは(2)胎盤を残した状態での子宮温存(保存療法)の2つに分類される。Interventional radiologyの普及に伴い、一時的血流遮断や子宮動脈塞栓術を用いた出血制御を導入する方法も提唱されているが、全国規模における動向は不明である。次回妊娠の希望が強い場合は前述(2)の保存療法が理想的であるが、産褥期における感染や異常性器出血などの合併症も指摘されており、本邦における多数の予後解析は行われていない。本研究では、前置癒着胎盤の周術期管理の実態ならびに「胎盤残置例」の予後を明らかにする。	前置癒着胎盤例 平成22年1月1日～平成26年12月31日	7例 (全体72例)	平成28年06月20日	平成29年12月31日	産婦人科学 五十嵐 豪
113	第3354号	CT造影剤の副作用発現状況の調査	当院ではCT検査時に造影剤を使用した患者において、造影剤による副作用が年間約90例発生している。副作用が発生した造影剤の種類や副作用の重症度・対処方法等を把握するため、CT造影剤の副作用発生状況を調査する。	造影剤アレルギーを 発症した造影剤CT 施行症例 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	約90例	平成28年06月20日	平成29年03月31日	薬剤部 【多摩病院】 坂下 裕子
114	第3355号	小児ネフローゼ症候群におけるミゾリビン血中濃度に影響を与える因子の検討	小児ステロイド依存性(難治性)ネフローゼ症候群ではステロイド薬の副作用を回避する(ステロイド薬を可能な限り減量する)目的で通常免疫抑制薬を併用する。その一つであるミゾリビンは副作用が少なく、長期的に使用することも可能な薬剤である。その効果を得るため、指標として血中濃度を参考にすが、同一患者においても血中濃度にばらつきが生じ、十分な効果が得られないことがある。血中濃度がばらつくと効果にも影響し、血中濃度低下による再発防止のため、その都度ステロイド薬を増量することもある。また、これに伴いミゾリビンの増量を余儀なくされたり、他の免疫抑制薬に変更することも考えられる。本研究ではミゾリビン血中濃度に影響を与える因子を明らかにする。	小児期発症ネフローゼ症候群のうち、ミゾリビンの投与を受けた方 平成17年4月1日～平成28年3月31日	30例	平成28年06月22日	平成29年05月31日	小児科学 齋藤 陽

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（平成28年7月1日現在）

No.	承認番号	課題名	研究概要	対象疾患 (調査対象期間)	予定症例数	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者
115	第3356号	非大腸癌肝転移に対する肝切除後の予後因子および切除適応に関する検討:多施設共同後ろ向き観察研究	手術手技・周術期管理の改善、症例の蓄積により、大腸癌肝転移に対する肝切除は一般的に、安全性が高く、かつ根治性が高い標準治療として位置付けられている。しかしながら、他臓器を原発とする転移性肝癌では、肝切除が必ずしも第一選択とならない。非大腸癌肝転移に対する肝切除の安全性・有用性を示す報告は欧米より発表されたものが多く、本邦における報告は少ない。また、本邦の報告については1980～90年代以降に単施設で症例を蓄積したものが多くことから、症例数が少なく、現在の医療水準を反映していない等の問題点がある。一方、転移性肝癌に動脈塞栓療法や熱凝固療法が奏効した報告もあり、転移性肝癌については標準治療が確立されていない。本研究では、2000年以降に多施設で肝切除を施行した非大腸癌肝転移症例を対象に後ろ向き解析を行い、予後因子を明らかにして肝切除の適応を確立する。	部分切除術以上の肝切除術を受け、病理組織学的に他臓器を原発とする転移性肝癌を診断された方 平成12年1月1日～平成25年12月31日	50例 (全体300例)	平成28年06月22日	平成28年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 星野 博之